■科目名

特色ある教育課程とそのデザイン

■開講年度	■学修コース名	■科目区分
2017		共通科目
■必修・選択	■単位数	■開講期
必修	2	後

■担当教員

廣瀬真琴、山本朋弘、奥山茂樹、上仮屋祐介、川田耕太郎

■代表教員等連絡先

廣瀬真琴（099－285－7786）

■講義の概要（目的と内容）

本演習では、特色ある教育課程について、理論や事例の収集及びデザインを行う。いくつかのトピックに分けて、多様なニーズや社会的・地域的背景及び特色を踏まえた教育課程（年間指導計画や単元例を含む）の具体について、整理・表現する＜協働＞。連携協力校を含め、鹿児島県の地域性・社会性を反映したトピックとして、離島域を含む特別支援教育にも対応するユニバーサルデザイン教育、小規模校、ICT、総合的な学習、小中一貫教育などを設定する。また、そのトピックに特化した、具体的なカリキュラムをデザインする。その際、選択したトピックスに関して、全国の事例、我が国や鹿児島県の教育政策の資料、学術研究を収集・確認する＜共通＞。それらを踏まえ、授業・単元＜学部新卒学生＞や、年間指導計画など＜現職教員学生＞のデザインや修正に取り組み、教育課程の全体像を構築・批評する力量を培う。なお、随時、トピックに関連する学習指導要領の内容や動向を学習していく。

■授業の到達目標及びテーマ

＜学部新卒学生、現職教員学生共通＞
・特色あるカリキュラムの意義、要点、そのデザイン方法を理解できる
＜主として学部新卒学生＞
・カリキュラム（単元レベル）を事例や理論を活用してデザイン・修正できる
＜主として現職教員学生＞
・カリキュラム（複数学年・教科横断的）を、事例や理論を活用してデザイン・修正できる

■授業計画

第 1回 課題設定１（県の教育課題を俯瞰し、学校の教育計画全体で対応が必要なトピックを整理する）〔廣瀬・奥山〕
第 2回 課題設定２（探究するトピックを選択し、その必要性やメリットについて明確化する）〔廣瀬・奥山〕
第 3回 デザイン１（自己の経験や考えに基づき、トピックに関連するカリキュラムをデザインする）〔廣瀬・奥山〕
第 4回 デザイン２（デザインしたカリキュラムについて、その妥当性や課題点等を整理する）〔廣瀬・奥山〕
第 5回 共有１（デザインしたカリキュラムを共有し、さらに検討が必要な点を批評しあう）〔廣瀬・奥山〕
第 6回 事例分析１（ユニバーサルデザイン教育の視点を持つカリキュラムの特徴を理解する）〔廣瀬・上仮屋・川田〕
第 7回 事例分析２（小規模校や複式学級におけるカリキュラムの特徴を理解する）〔廣瀬・奥山・宮崎〕
第 8回 事例分析３（小中一貫教育を展開している学校のカリキュラムの特徴を理解する）〔廣瀬・奥山・宮崎〕
第 9回 事例分析４（情報活用能力（ICTの活用含む）に関するカリキュラムの特徴を理解する）〔廣瀬・山本〕
第10回 事例分析５（総合的な学習のカリキュラムの特徴を理解する）〔廣瀬・奥山・宮崎〕
第11回 理論習得１（選択したトピックに関するカリキュラム開発上、必要となる知識や理論を整理する）〔廣瀬・奥山〕
第12回 理論習得２（担当教員と協働で、必要な知識や理論に関する文献等を読解し、ポイントを確認する）〔廣瀬・奥山〕
第13回 理論習得３（担当教員と協働で、必要な知識や理論に関する文献等を読解し、ポイントを集約する）〔廣瀬・奥山〕
第14回 デザインの修正１（事例分析と習得した理論等を基に、デザインしたカリキュラムを修正する）〔全員〕
第15回 デザインの修正２及び共有２（修正点を主としたポスター発表を行い、相互に理解を深める）〔全員〕

■授業外学習（予習・復習）

授業内容の理解を促す予習、自己や自校の実践との関連付けを整理する復習が必要である。
・予習（10分）・・・関連する図書や論文、新聞記事や実践事例を収集・読解する
・復習（20分）・・・授業内容を振り返り、自己や自校の実践との関連性を整理し、授業での発表等に備える

■受講要件

特になし

■成績の評価基準

以下の３つの観点から総合的に評価する
１．学習態度（１５%）：予習を含む学習意欲や理解度を評価する
２．授業内における討議等での貢献度（４５%）：共有活動等におけるパフォーマンスを評価する
３．デザインしたカリキュラムや、その過程についてのレポート（４０%）：本演習の到達目標について受講者の立場を踏まえて省察が深められているものを高く評価する

■参考書・教科書

特になし（適宜、資料等を配布する）

■オフィスアワー・その他

連絡を受けた際、個別に対応し、設定する

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他)

アクティブ・ラーニング(授業回数)